

季刊

じぱ

Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

清水 節 氏 知的財産高等裁判所 所長

わが社のこだわり

富士通株式会社

Human Centric Innovation

～ICTの力で人をエンパワーし豊かな未来を実現～

ZOOM UP

第4次産業革命プロジェクト

JIPA通信

コラボ企画研修



SUMMER
2018
VOL.6

知的財産高等裁判所が設立されて14年目になり、その間ビジネス環境が大きく変化するなか、知的財産の裁判を長く担ってこられた清水所長に、別宮副理事長が4月にインタビューを行った。

形式面で変わってきた判決

別宮 知財高裁設立時から現在まで知財価値が大きく変わってきた中で、知財高裁の取り組みに変化はありましたか。

清水 設立以来、いろいろな声を聞きますが、裁判所は個々の裁判の積み重ねをしているだけで、内容面について明確な基準変更や明らかな傾向の変遷はないと考えています。変わった点は形式面で、当事者が納得のいくように判決の内容を具体的にわかりやすくしてきました。例えば、特許公報を証拠として使う場合は、引用箇所を多く判決文に記載したり、図面表を増やして、ビジュアルにわかりやすいものになっています。

別宮 今後ビッグデータ等を取り扱う事件が増えてくると思われますが、それについて何か感じることはありますか。

清水 現時点では皆さんがこれからどう扱うかという段階なので、裁判所がそれを超えてこうしたらということはありません。今はビッグデータの取扱上の課題、不正競争防止法改正の動き等に関して勉強しているところです。

判例の規範定立の考え方

別宮 判例が先例になつて、後の裁判に影響を及ぼすと思われるのですが、判例の規範についてお考えをお聞かせください。特に標準必須特許についていかがでしょうか。

清水 確かに大合議事件や特許庁の運用の見直しが必要なときは規範の定立は意識しますが、通常の事件ではあまり意識しないのが一般的です。この判決が社会にどんな影響があるかを考えすぎて、具体的事件で集中すべき解決の方向が歪んでしまうことを懸念します。

標準必須特許についてですが、どの程度標準に寄与する特許なのか、それによって全然ちがいますので、標準必須特許の裁判だからといって、一つの裁判の結果が後の裁判に影響を与えるということはむしろありません。確かに大合議事件では一般論として差止請求が困難で損害賠償で解決という基準を立てましたが、個別事件であれば差止を認めるということも起こり得ます。しかし、そのような判決があったか



Special INTERVIEW No.006

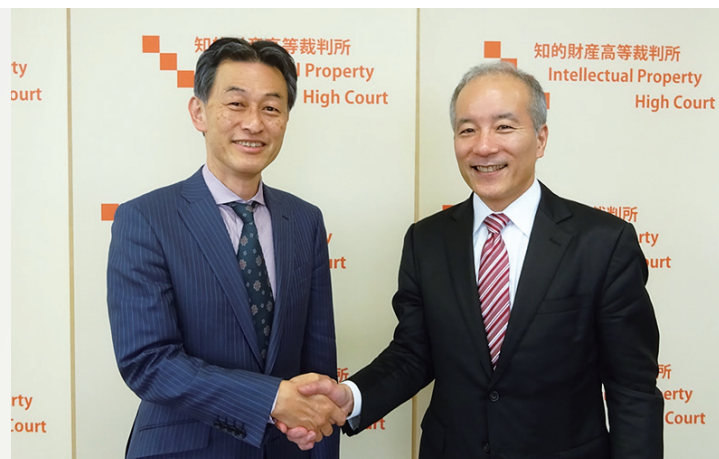
国際化の動きの中で 「わかりやすく早い」知財高裁へ 企業で知財の積極活用を

清水 節氏 Misao Shimizu (写真左)

知的財産高等裁判所 所長(当時)

別宮 智徳 Tomonori Bekku (写真右)

日本知的財産協会 副理事長／日産自動車株式会社 知的財産部 部長



らといって、それ以降傾向が変わって、差止請求が標準必須特許でも一般的に許される、というように考えるのは誤りです。

裁判所の国際交流

別宮 知財高裁も国際知財司法シンポジウム開催など活発にされていますが、国際化に向けた取り組み、また、世界の裁判所と比較して知財高裁がアピールできる点があればお聞かせください。

清水 技術そのものが国を超えて広がっているのを、国を超えた裁判というのはいろいろなところで起こります。そのため各国の裁判所との連携の必要性が非常に切迫していると思っています。特に欧米で重要な判決ができれば、判決の考え方などをパネルディスカッション等で外国の裁判官と議論することが必要になるでしょう。

知財高裁は国内では独占企業なので、全然アピールする必要はなかったのですが(笑)、この5年くらいで日本の裁判所の良い点を世界にアピールしていかなければならない事態に迫られています。先にも述べましたが、丁寧な判決文の記載もアピールポイントの一つです。また、近年の裁判期間

は、特許侵害訴訟で1年半以下と早くなっていて、これは世界でもトップクラスの水準です。重要な判決文やその要約については、英訳をホームページに載せて、海外の人にも読んでいただくように公開しています。日本語では作っていないのですが、特許では英語の論点表を作ってわかりやすくしています。

JIPAへの期待

別宮 最後にJIPAに今後期待することをお願いします。

清水 JIPAのように様々な分野の企業の方々が知財のことで集まっている団体は世界でも他にないと伺っており、非常に優れた組織ではないかと思っています。JIPAで活動している皆さんは、個々の企業の中でも知財の価値を重視している方々なので、それを積極的に活用していただきたいと思います。私個人の意見になりますが、日本のように資源のない国は、知財を大きな柱にしていかなないと、生き残りが難しい状況になっています。JIPAが中心になって知財を企業の柱になるように啓発し利用することが大事だと思います。裁判所も皆さん方から提言をしていただければ、法律の枠の中で応えていきたいと思っています。

わが社のこだわり [富士通株式会社]

Human Centric Innovation

～ICTの力で人をエンパワーし 豊かな未来を実現～

佐々木 伸彦 Nobuhiko Sasaki

富士通株式会社 執行役員副会長

FUJITSU



©RIKEN



富士通は、これまで世界最速のスパコン「京」などの最先端技術を送り出してきました。デジタル化が加速する中、「つながるサービス」の実現を成長戦略の基本とし、お客様のみならず、アカデミアや国際機関などのステークホルダーと共に、グローバルなエコシステムの構築を目指しています。「つながるサービス」実現の重要な要素としてSDGsを位置付け、この世界共通の目標にステークホルダーと視点を合わせ、Digital Co-Creationにより社会課題の解決を実現していきます。この一環として、2017年にWIPO GREENにパートナーとして参加しました。環境技術を世界に提供し、世界中の人々や地球環境に貢献することを目指します。

現在のビジネス環境は、IoTの発達と共に従来の枠組を越えた共創が不可欠です。様々な業界の方が参画しているJIPAはまさに共創の場であり、世界をリードするJIPAの活動に期待しております。当社もより一層貢献して参りたいと考えております。

人を中心に考える“Human Centric”

近年、ICTの技術革新は、社会のあらゆる領域において従来にないスピードで進行しています。しかし、これらのテクノロジーは人間の理解力を超え、私たちは置き去りにされてしまうのではないかという不安をお持ちの方も増えてきているのではないのでしょうか。富士通は、全ての技術革新の中心に人を据え、先進技術で人々をエンパワーし、社会の福祉を実現することを使命と考えています。言い換えれば、テクノロジーを使って人を幸せにすること、そして、人の創造性こそが技術を進歩させ、イノベーションを実現すると信じています。

“説明可能なAI”の実現へ

「人がAIを信頼できる」ことが、今後のAIの進化の方向を考える上で最も重要です。それは、AIが出す分析の結果を人が理解することができ、AIに目的を与えて管理できることを意味します。しかし、現在普及しているAIは解析の中身は多くの場合はブラックボックスであり、なぜその結論にたどり着いたのかという根拠を説明できません。そこで富士通は「ディープテンソル」と「ナレッジグラフ」という2つのAI技術を組み合わせ、説明可能なAIを開発しています。AIが示す選択肢を納得して活用したいという、人の気持ちを中心に考えたソリューション

であり、目指すゴールは人がAIを安心して使える社会の実現です。

不可能を可能に

AIを安心して活用できるようになると、様々な社会問題の解決のためにAIによるデータ解析への要請は増大します。しかし、膨大なデータ計算に必要な量子コンピュータは、実用化にはまだ多くの年月がかかる見通しです。富士通は、量子技術の研究開発で培ってきたノウハウとスパコン開発で蓄積した並列処理技術や半導体設計のノウハウを融合させ、量子ビットの仕組みをデジタル回路上で再現することができる新テクノロジー「デジタルアニーラ」の開発に成功しました。

膨大な計算が必要な例として巡回セールスマン問題があります。これは、人の移動距離が最小になるように巡回する都市の順番を決めるものです。30都市を巡回する場合の組み合わせは1京²通りで、スパコンで計算しても8億年もかかります。しかし、デジ

タルアニーラを使うと1秒以内に解くことが可能です。

デジタルアニーラは、医療分野でのがん治療、海運分野での航路計算、災害シミュレーションによる強靱な町作りなど、私たちの社会の様々な課題への活用が考えられます。

知財のオープン活用の取組み

より一層の社会貢献のためには、当社が知的財産を用いた製品やサービスを提供するよりも、知的財産を外部に開放し、多くの人に利用していただいたほうが良い場合もあります。富士通は知的財産のオープン活用の取組として、環境技術に関する200件以上の知的財産をWIPO GREENのデータベースに登録しました。国際的な枠組みを活用し、環境技術の普及をグローバルに加速することで、脱炭素社会の実現や気候変動への適応など地球環境保全に貢献することを目指しています。技術は使われてこそ価値を生み出すものであり、幅広い知的財産権の活用こそが富士通が目指すHuman Centricな社会の実現に資するものであると考えています。

大水 眞己 Maki Ohmizu

日本知的財産協会 常務理事
富士通株式会社

法務・コンプライアンス・知的財産本部 本部長代理



第4次産業革命プロジェクト

近藤 健治
Kenji Kondo

日本知的財産協会 参与 第4次産業革命プロジェクトリーダー
トヨタ自動車株式会社 知的財産部 部長

JIPAの他のプロジェクトは、その名前を見ればそのプロジェクトが何をやっているのかは略検討がつきます。しかしながら、本プロジェクトの名前は非常に漠然としており、このプロジェクトは一体何をしているプロジェクトなのだろう？と思われる方も多いと思います。

本プロジェクトは、将来のための新しいことは何でもやるプロジェクトなのです。研究開発環境やビジネス環境を含め、時代が大きく変わろうとしているなかで、未来の世の中がもっと良くなるためには、知財システムをどうすべきかを幅広く議論しています。

現在、第4次産業革命に関する知財システムについて、国レベルで議論、検討

が継続しており、JIPAとしても積極的に意見発信する必要があります。データ利活用促進に向けた不正競争防止法改正、標準必須特許のライセンス交渉に関する手引きなど、このような直近施策に対する意見発信はもちろんのこと、本プロジェクトのミッションとしては、将来に向けたより良い知財システムをJIPAから積極的に提案してゆくことと考えています。

とはいっても、将来をクリアに予測することは難しく、特に、現在のような時代の大きな変革期では、過去からの延長線での予測は全く役に立ちません。本プロジェクトの検討においても、過去の事例や何らかの公式を当てはめ

て解を求めるような簡単なものではなく、過去にとらわれることなく頭を柔らかくして新しいことを検討しています。

その検討のためにも、JIPA内組織の様々な業種の考えや方向性を情報収集・共有したり、日本産業界の意見のみならず、グローバルな意見も収集するために、東京開催のIPBC Asia(第4次産業革命関連テーマのパネルディスカッション)にプロジェクトメンバーが参加して議論したり、David J. Kappos元USPTO長官との意見交換会を実施したりしてきました。

本プロジェクトのゴールは非常にチャレンジングなものであり、苦労や悩みも多くありますが、幕末の島津斉彬や西郷隆盛が新たな時代に向けて持っていた心意気を見習って頑張らないといけないと思っています。

次世代を現役世代で迎える読者の皆さんの柔軟な発想での提案もウェルカムです。何かあればJIPA事務局までご連絡ください！



Kappos元USPTO長官を囲んで



プロジェクト会議

JIPA通信 コラボ企画研修

臨時研修では、「時代の変化やニーズにマッチした研修」を、いち早くタイムリーに開催しています。その中でも好評なのが、昨年度から開催している会誌広報委員会とのコラボ企画の研修です。「知財管理誌4月特集号」の内容について、執筆された方を講師にお迎えして講義していただく研修で、今年度のテーマは「知財のターニングポイント」です。世界の知的財産を取り巻く環境変化と、それが企業の知財戦略にどのように影響するかを、知財業界のターニングポイントの視点で8月下旬に講義していただきます。第一線で活躍されている著名な5名の講師陣にご登壇いただきますので、是非ご受講ください。



マンガ作成: ad-manga.com

表紙の写真は...

「クリーンエネルギー製造装置」

ソニー株式会社 知的財産センター 森田 圭二

表紙の写真は、佐倉ふるさと広場の「リーフデ(友愛)」というオランダ風車です。名前は日蘭交流のきっかけとなったリーフデ号に由来します。都心から成田空港に向かう京成本線の車窓から見えるので、ご存知の方もいらっしゃるでしょう。風車は風の力によって羽根を回転させ、そのエネルギーを風車に組み込まれた水車や石臼などの動力源として活用します。この風車は水のくみ上げ用ですが、オランダでは、挽いた粉でパンを焼いたりしています。現代の風車は、クリーンエネルギーの製造装置として、様々な可能性を有しています。

本誌では、表紙写真を募集しています。テーマは季節感があり、できれば技術、特許、知財、デザインに関連があるもの。写真と説明文を会誌広報グループ kikansi@jipa.or.jp 宛てにお送りください。また、「わが社のこだわり」のほか、ぜひ取り上げて欲しいというテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.6
SUMMER 2018
2018年7月15日発行

編集人: 一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会
発行人: 一般社団法人 日本知的財産協会内 久慈 直登
<http://www.jipa.or.jp/kikansi/jipa.html>
印刷&DTP: NPC 日本印刷株式会社